

## 美の里づくり審査会特別賞

かほくがたかんたくち つばたまち  
河北潟干拓地ひまわり村(石川県津幡町)

ふるさとの水と土への愛しみの心を育み、  
農業への親しみを体験してもらう

### ●地区概要

津幡町は石川県のほぼ中央に位置する町で、河北潟は町の西南部にあります。「河北潟干拓地ひまわり村」は、9つの団体（石川県、金沢市、かほく市、津幡町、内灘町、河北潟干拓土地改良区、グリーン・アース河北潟、河北潟生産組合連合会、河北潟営農公社）で組織・運営されています。

ひまわり村は、知事の発案で、農家等の協力のもと、現在2.3ha、35万本のひまわりが咲き誇っています。春には緑肥作物のクリムソンクローバーが畑一面に深紅の絨毯を敷き詰めたような鮮やかに咲きます。5月中旬には保育園児による、ひまわりの種まきを行い開村に向けた準備が始まります。7月下旬頃満開の開期に、ひまわり村では、同保育園児によるアトラクションや、迷路遊びなどの開村式を行い、お盆過ぎまで10,000人余りの方々が訪れ、子供達の笑顔で賑わっています。

干拓地では、春は防風林帯と平行して9km、1,600本の桜並木の桜の乱舞、夏はひまわり村のひまわりの開花、秋はコスモスとメタセコイアの並木道の紅葉、冬はメタセコイアに降り積もる雪景色など、常に景観による癒やしの実体験の充実を図りながら干拓地農業に対する理解と景観形成の保全・形成維持に努めています。また更なる知名度やイメージアップと活性化に向けた取組として、平成12年度「ひまわり油」の販売を初め、平成20年度「ひまわりクッキー」、平成21年度「生キャラメル」と「白い大判焼き」等の商品開発・販売を実践しており、干拓地農産物の特産品作りにもチャレンジしています。



一面に広がるひまわり



緑肥として植えられているクリムソンクローバー